

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「その人らしく、生活できる」ということを、念頭に置き、独自の理念を職員全員で確認し、作り上げている。</p>	○	理念を意識できるように、玄関入り口に表示し今後も、理念の意味を確認し合いつつ、入居者主体を心がけていきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	採用時の面接の場で理念を説明し理解してもらうようにしている。更に定例会の中で理念についての再確認が継続されており、施設方針・理念が明快で職員全体に浸透している。	○	問題にぶつかった時、それがホームの理念に適しているかどうかをみつめなおし、認知症の人の立場に立ったケアの提供が出来ているかを常に意識していきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	入所前には家族にも説明し、共感や理解を得ている。地域住民に対しても、グループホーム独自の新聞を発行し、理解を深めてもらえるよう取り組んでいる。	○	町内会の回覧板でホーム便りの紹介をおこなっているが、今後も理念や役割が地域に広められるように努めていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	あいさつはもちろんのことだが、毎年五月には、子供の日にちなみ、餅を配ったり、八月には、祭りの誘いにご近所を訪問している。先日は、近所のうさぎが迷子になり、みんなで探して喜ばれたこともあった。	○	玄関も施錠は行わず、いつでもどなたでも、受け入れられるように開放的に努めているが、現代の風潮が邪魔しているような感もありもっと、日常的なつきあいが出来るようになってほしいと思う。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	毎年地域の高校・幼稚園の運動会の見学や音楽会の鑑賞など積極的に参加し交流を深めている。また、地域のボランティアや高校生の慰問、学生の福祉体験学習の場を提供し、交流にも努めている。	○	今後も幅広く交流を続けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域からの要請があれば、事業所の人材を活かした活動が必要であるが、現在は特に取り組んでいない。	○	認知症高齢者の家族からの希望があれば、施設見学、ボランティア等を受け入れ介護全般における知識や技術を地域の高齢者をもつ家族に提供していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価により自施設のケアを振り返ることができる。更に客観的視点で行われる外部評価によりサービスの質の確保と向上を目的として実施される。その結果を活かしたサービスが提供されている。	○	今後も自己のケアの振り返りを続ける。外部評価の結果を謙虚に受け止め統一したチームケアが提供できるように努める。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月1回開催し、地域の民生委員や家族等の率直な意見を伺っている。地域包括支援センターの職員からの情報提供も受けることができている。	○	今後も継続していくと共に、数多くの参加を促し意見交換をしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えている。また、行事(祭り)があるごとに「お知らせ」を配布し、参加を促している。	○	来園時、意見を聞き今後の参考にしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今年度は、実践者研修及び介護支援専門員専門研修に参加した。研修報告により全職員が周知できるようにしている。	○	認知症高齢者を保護するための制度であり、人の尊厳や権利擁護を基本理念とする財産管理や身上監護に関する福祉サービス、高齢者虐待防止法も施行となっているため研修等への参加を勧め必要な人に活用できる知識が必要である。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の施行により、権利擁護・成年後見制度等の研修の機会も増えたので 参加に努めている。	○	職員の心身のケアにも配慮し、職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を取り入れている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書及び重要事項説明書、パンフレット等に記載し、入居の際は、十分な時間を使って丁寧に説明し、同意を得ている。	○	利用者様・家族等に十分な説明を行っているが、入居後に再度疑問点・質問がないか随時尋ねていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、不満、苦情等は、利用者の言葉や態度から、その思いを大切に受け止め、連絡帳などで職員全体で把握し、的確な対応に努めている。	○	居室にて話しやすい雰囲気心がけながら意見を傾聴し、ミーティングなどで話し合い、最良なサービスに努めていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、受診や薬取りをお願いし、面会になるべく、多く来て頂くようにしている。その際最近のご様子をお話したり、金銭報告も行っている。また、必要に応じ、電話連絡は密に行っている。	○	家族が安心できるように、今後も報告・連絡を行うと共に意見交換・コミュニケーションの機会にしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口の確保は掲示している。地域推進委員会も開催し家族が参加され、訪問時や家族会時の他にも、自由に発言出来る場を設け雰囲気作りに留意し、出された意見要望等はミーティングで話し合い反映させている。	○	家族や外部からの意見や苦情は、前向きに受け止め、運営・サービスの向上に努めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談などの場でも職員の意見を聞き参考にしている。	○	ミーティングまたは、随時意見を聞き、サービスの向上に、努めていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	スタッフの勤務調整は、柔軟に対応できている。	○	十分なサービスが提供できるように今後も調整していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各棟の交流を日頃から心がけ、異動や離職に伴うダメージは最小限に防げるように努力している。	○	利用者様が安心して生活できるよう心がけていきたい。交流の機会を数多く設けコミュニケーションを図っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他のグループホームからの研修生の受け入れの要請等に関しては積極的に受け入れ自施設の職員の育成にも役立っている。実践者研修及び自治体の研修等にも参加し学び続けている。	○ 今後も段階に応じた研修への参加を進めていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修・勉強会へ参加し交流・情報交換の機会を設けている。他施設への見学・勉強は職員個人で訪問している。	○ 積極的に研修・勉強会へ参加しサービスの質の向上に努めていく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員相互の親睦、悩みの聴取は行っており、その都度対応できるように努めている。	○ 職員の心のケアを大切に個別に話を聞き、助言や指導を心がけていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	面接時本人の意向を尋ね、職員が向上心を持って働けるように、労働環境づくりに努めている。運営者も常に職員の業務や悩みを把握できている。	○ 職員が誇りと意欲を持って、やりがいを見いだせる職場を目指していきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	インテークの際に本人から充分情報を収集出来るように時間を作りゆったりとした中で傾聴することで受けとめる努力をしている。	○ 今後も本人が安心して利用できるように信頼関係の構築に取り組んでいく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	個別に応じてよく聴く時間を設定し、困りごと、不安な面などを理解でき受容できるように努めている。	○ 話しやすい雰囲気をつくり、今何に困っているのかを十分に傾聴していくよう努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク時に現状に応じた適切なサービスが提供できるように本人・家族等からの情報を把握し本人が納得できる支援を行う。	○	本人やご家族との信頼関係を築きながら、必要なサービスにつなげていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得した利用につなげるために短時間ホームに滞在する中で徐々にホームの雰囲気に馴れるような工夫を家族との相談により行っている。他の利用者の受け入れは良好である。	○	今後も家族と連携して本人が安心して利用できるサービスを提供していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症を抱えて、困惑する事が多い利用者と共に、自分を振り返り、冷静に介護を提供できるように、学ぶ事を続けていきたい。常にその人らしく生活していただけるように支援している。	○	利用者と職員が、共に励まし合いながら、一緒に大切な日々を、楽しく生活していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の理解が得られるような介護を提供し、いつまでも家族とホームの両方で、温かく見守れるように支援している。	○	家族の来所を本人と共に歓迎し、円満な関係と本人を支えていくための協力関係を大切にしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	遠方の方は電話連絡をすすめている。誕生会、花見、祭りなど家族と過ごす時間を提供し、家族とのより良い関係の継続に努めている。	○	職員は、あくまでも本人とご家族の支援者であり、本人と家族の絆を大切に、今後もより良い関係を築いていけるための支援に努めていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望や家族の要望があれば、直ちに受け入れ、支援に努めている。	○	可能な限りふるさと訪問を続けたり、本人をとりまく人や支えてきた人たちとの関係が途切れないように支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人ひとりの性格も含めて把握し、状態に応じた対応を心がけている。利用者同士の関係についても、全ての職員で情報を共有し合う事に努めている。	○	認知症の人の心理機能の特徴を全職員が理解し日常のケアに活かしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された後も祭りに招待し、来てくださる家族もある。いつまでも関係を大切にして、継続的につきあいが出来ることが望ましく思う。	○	関係を大切にサービス終了後も相談や支援に応じていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネジメントを実施する場合個別性を大事にし、本人・家族の思いを引き出せるような面談を心がけている。本人の希望・意向を把握するためにチームの意見を収集し情報を整理している。	○	今後も本人・家族の思いや意向を把握できるように信頼関係を作っていく事に取り組んでいきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴やライフスタイル、個性や価値観等の把握に努め、なるべく以前と変わらない過ごしやすい環境を提供出来るように支援している。	○	プライバシーへの配慮も忘れずに、本人の把握に努め、ケアに活かしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々のペースで自己決定を尊重しながら見守り援助できている。	○	出来ないことより、出来ることに注目し無理強いすることなく、また、本人が負担を感じない程度に励みながら、全体の把握に努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	作成前にスタッフと意見交換を行う。すべての気づきや意見を取り入れた計画であるように努めている。	○	利用者を中心として家族の思いを反映した計画をチームで実施できる体制を作りたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね実施しているが、間に合わず更新時に行うこともある。	○	今後は状態変化にあわせ見直しができるように業務の整理が必要だと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常のケアの記録を介護計画の見直しに活かしている。計画作成者としての支援経過は不足している。	○	不足している支援経過・モニタリングを行い実践や計画見直しに活かしていきたい。
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況や要望に向かい合い、必要な支援を臨機応変に行っている。病院受診や家族の送り迎え、家族の宿泊を柔軟に支援している。	○	今後も可能な限り、利用者と家族の状況や要望に臨機応変に対応していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して暮らせるように、消防や民生委員、ボランティアの協力をもらいながら支援しているが、もっと幅広く地域資源を考慮していきたい。	○	利用者がより豊かな暮らしを楽しめるように、多様な地域資源と協働していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今の所要望はないが、必要があれば入居者の状況や希望に応じて利用するための支援をしていきたい。	○	今の所要望はないが、必要があれば入居者の状況や希望に応じて利用するための支援をしていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加してくださり周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築くことができた。	○	地域包括支援センターと協働しながら、認知症の人を地域で支えるための地域資源ネットワークを広げていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族が信頼できるかかりつけ医を事業所は、優先し受診を支援している。基本的には家族同行の受診となっているが、職員が代行することもある。	○	今後も希望されるかかりつけ医の受診・適切な医療を受ける為に良好な関係を継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	相談できる医師を確保できており、認知症についての適切な指示や助言をもらっている。服薬に関する相談もできている。	○	医師との信頼関係を大切に今後も連絡を密に摂りながら、認知症のケアに努めていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。	○	介護職員と看護職員が連携を摂りながら、また、看護職員と医療機関との連携も密に摂りながら利用者のケアに努めていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院する際は本人に関する情報の提供を速やかに行い、本人の心身のダメージの軽減に努め、入院中も職員の見舞いや、家族との情報交換に努めている。退院後のケアについても職員が出向き退院指導を利用者と一緒に受ける事もある。	○	回復状況を詳しく聞くことや、退院時の指導を受けることで入居者に安心して退院できるような環境作りを提供していきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだ、該当者はいないが、事業所が対応し得る最大のケアについて、その都度、状況変化に応じた話し合いを持ち、本人と家族の納得を得ながら、重度化に伴う支援をおこなっていききたい。	○	状態の変化があるごとに、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払いながら、慎重に対応していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	まだ、該当者はいないが、家族や医療関係者と連携をとりながら、職員全体で話し合い、常に最良の対応を考慮していきたい。	○	状態の変化があるごとに、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払いながら、慎重に対応していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい住まいでもこれまでの暮らしの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、ダメージが最小となるよう努めている。	○	入居者や家族の意見を踏まえた上で、最良の支援に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に敬う気持ちを忘れずに、言葉は選んで話すように努めている。命令や指示語にならないように、いつも問いかけるような気持ちを忘れないで、接するよう心がけている。	○ 食べこぼしや、トイレ誘導などプライバシーの侵害にならないようにさりげない対応・声かけを意識している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の自己決定や自立を促し「その人らしさ」の表現を助けることが出来ているか、という事を常に考え、受容し気持ちよく日常過ごせるように心がけている。	○ 今後も個人の内面的な部分を理解しスタッフが、密に連携を取り個別に応じたケアを提供していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中で、自己決定を待つケアを心がけている。スタッフの思いではなくて、常に本人が何を望み、何をしたいのかをさぐり、自由に選択できる環境と安心して生活できる場を提供している。	○ 利用者が常に主人公であることを忘れずに、介護者は支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの理美容院を利用しているが、殆どの入居者は本人の意向で職員に髪染めやカットしてもらっている。お祭りの日はお化粧品をして浴衣をきて、おしゃれの機会を設けている。	○ 本人の希望を聴きながら、その人らしい暮らしが持続できるよう支援していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの興味と特技を生かして、食事の準備や片づけが出来ているときもあるが、献立は殆どスタッフが決めている。	○ もっと個人の嗜好調査を行い調理や食材選びに参加し、献立作りにつなげ、食への楽しみ・意欲を高めていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在たばこやお酒を飲まれる方はいらっしゃらないが、就寝時梅酒や桃酒を希望に応じて提供している。	○ 自宅で過ごされていたように、自由に楽しんでもらえるように支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	体調の変化にあわせてリハビリパンツを使用する場合もあるが、出来る限りオムツを使用せずに、トイレでの排泄を促している。失敗があっても、いつでもシャワーの利用も可能にしている。	○	失禁せず気持ちよく過ごせるように時間をみてトイレ誘導するなどして、自立に向けた支援をしていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は朝晩に関係なく、希望に応じていつでも開放できるようにしている。また、毎日入浴できて、要望があれば一日何回でも提供できる。	○	必ず見守りが必要だが、スタッフの見守りや介助を負担に感じさせないで、ゆっくりと入浴を楽しめるように今後も支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ひとりになる時間も大切に、いつでも自由に休んでもらっている。起床や就寝も自由である。	○	居室の湿度や気温を考慮し、必要に応じ暖房や冷房、扇風機等で対応し、気持ちよく休めるように配慮している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「その人らしく」生き活きと生活できるように、趣味・生き甲斐など以前の情報を得て、得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらいお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉をつたえるように心がけている。	○	今後も、もっと一人ひとりの生活歴を知ることで本人を理解し、ケアにあたるここが大切だと思うし、仕事を手伝ってもらい、感謝される喜びや生きる張り合いが見いだせるように配慮していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理に不安・困難な入居者には職員が対応している。職員と買い物に行った際は、レジの近くでお金を渡し支払いをしている。	○	買い物に出かける機会を増やし、買い物の喜び、楽しみを感じられるように心がけていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調や天候を考慮し、ドライブや近隣の散歩に機会を多く作って出かけている。高校の演奏会や体育祭、幼稚園の運動会の招待もあり出かけている。	○	今後も外出することで、気分転換を図ると共に、地域住民との交流を多く設けていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との外出・外泊もある。ふるさと訪問としてドライブにも出かけている。	○	利用者の希望をいつでも叶えられるように、家族にも協力をもらいながら、今後も家族と出かける機会を支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用は自由で希望があれば使用してもらっている。定期的に手紙を書いておられる方もいる。	○	遠くにいらっしゃる家族には、時々ホームより電話をかけて、懐かしく声を聞いてもらっている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族は勿論いつでも、どなたでも訪問してもらっている。	○	これからも、訪問時と帰られる際は、必ず出迎え、お見送りを心掛け「また来たい」「いつでも、来て、いいんだ」と訪問者が思えるような、気持ちよい環境を提供していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや日々の申し送り、日誌等で確認しながら、拘束のないケアに努めている。言葉の拘束も注意を促している。	○	拘束することのないよう居心地のいい環境を提供し、今後も生活できるように心がけたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠はしておらず「開放的だね」と訪問者から言われる。利用者がふらりと出て行かれる行動も把握できている。夜間は戸締まりをしている。	○	利用者が常に主人公であることを忘れずに、介護者は安全面に配慮して、自由な暮らしを支援していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常にスタッフは利用者の言動や居場所を把握し、自然な形で利用者の見守りを心掛けている。スタッフのそれぞれの役割を明確にしている。	○	利用者に威圧感を与えないように、プライバシーを配慮しながら、見守っていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	鍵付きの倉庫・カーテンなどで見えないようにして、入居者が振り扱わないように注意している。	○	今までも事故等ないが、今後も充分気をつけていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	どっきり改善ノートを記録し職員に共有認識を図っている。万が一の事故が発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し報告すると共に事故原因や今後の予防対策について検討している。	○	事故を未然に防ぐ工夫や事故防止対策等を学び知識を高めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命の講習は職員全員が定期的に受けている。ミーティング時に看護師による応急手当の指導も受けている。	○	利用者の身体状態の急変や事故発生時にも慌てずに確実かつ適切な行動がとれるように、定期的な勉強会を続けていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、消防訓練は行っているが地域の協力は得られていない。	○	地域住民への呼びかけを工夫し、会合の計画を立てていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時にも十分な説明を心掛けているが、その都度家族へ状態を報告し家族の意見を仰ぎながら、対策を考慮している。	○	利用者や家族に押し付けや負担とならないように、話し合いは配慮していきたい。
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	スタッフ全員がバイタル記録表を確認し、外出の可、入浴の可否の判断を行っている。身体状況の変化やサインの記録をスタッフ全員が共通理解していく必要性は利用者の安定した生活を支えることに役立っている。	○	今後も連絡ノートや申し送りノートまた引き継ぎ等で利用者の体調・異常の変化発見に努めていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人台帳に薬の情報提供表を添付し、全職員が確認出来るようにしている。服薬支援は出来ている。薬の服用で認知症が悪化した入居者もあり、全ての薬を中止し状態が安定した例もある。	○	全職員が症状の変化まで確認出来るようにしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維の多い食事やときなこ牛乳そして、無理のない体操で対応し、自然排便できるよう取り組んでいるが、必要に応じて下剤服用の人もある。	○	排便チェックを記入し、状態把握に努め、食事の工夫や運動の働きかけ等で、薬になるべく頼らない支援を心がけていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアは習慣になっている。介護を要する方のみでなく全員に声かけ、見守りができている。ポリドントを使って、清潔保持にも努めている。	○	口腔ケアの習慣を徹底し異常の早期発見に努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え、バランス良い摂取を提供している。栄養士の指導も受け、塩分の摂りすぎやカロリーの摂りすぎなどにも注意している。	○	今後も栄養士の指導を仰ぎながら、栄養摂取や水分補給に努めていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の勉強会をして、知識を高めている。インフルエンザ予防接種は全員に受けてもらっている。	○	看護師が5名いるため、身体チェックや早期発見、早期治療に努めている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	梅雨時期や夏場は特に気をつけて生ものは避けるように心掛けている。まな板や布巾の除菌はもちろんのこと、食器類は日光消毒を行っている。	○	庭の畑で採れた新鮮な野菜や移動魚やさんに来てもらったり、食材も国内産にこだわっている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は広く威圧的ではない。季節の花々や入居者の写真等を飾り、親しみやすい雰囲気をつくるようにしている。また、いつでもどなたでも受け入れられるように、開放的に努めている。	○	利用者や家族、近隣の人等の視点で、違和感や威圧感のない、入りやすい事業所の雰囲気を大切にしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるように、その場に合った音量・照明など配慮・調節し、リラックスできるようにしている。また、スタッフの声のトーンや大きさにもスタッフ一人ひとりが気配りし、注意を促している。	○	利用者一人ひとりの感覚や価値観を大切にしながら、入居者にとって居心地の良い空間を提供していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや掘こたつ、テーブル等自由に使えるようにしてある。また、ウッドデッキや庭にも長椅子を置き、自由に過ごせるように配慮している。	○	家具の配置などを工夫しながら、一人になれるスペースや仲の良い入居者同士でくつろげるスペース等の居場所作りや環境作りを心がけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や馴染みの品を自由に持ち込めるようにしている。本人や家族の写真、季節の花々を飾っている利用者もいる。	○	本人や家族の要望で過ごしやすい、落ちついた雰囲気作りを支援していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入換えを心掛け、冷やすぎや暖めすぎないように、入居者の反応をまながら、調整を心掛けている。	○	空気の入換えや温度調節について、職員は常に意識し職員の感覚だけでなく入居者一人ひとりの状態を配慮していきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・居間・浴室には手すりを設置し、マットの下には滑り止めを置いている。トイレも暖房便座付きで手すりも設置している。	○	身体機能の変化等に考慮し入居者の「今、現在の状態」に応じて生活環境の改善に取り組んでいきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	家庭的な温かい雰囲気の中で、出来ること、出来そうな事に取り組み出来ない事は職員と共に行い自立支援に努めている。	○	残存機能を活かしADL維持・増進に努めていきたい。また、利用者一人ひとりの得意なこと、日常的に行っていた事を把握し、それを活かせるように、今後も支援していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭は定期で芝の管理ができており食事会や散歩の場に適している。グランドゴルフもできる。縁側では梅干しや漬け物など干したりしている。	○	庭には、釜戸が設置してあり、薪で御飯をたいたり、外での食事も喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

*入居者の健康状態や心理状態を十分に把握し、可能な限り、外出を取り入れ（外食や手作り弁当持参し）気分転換がいつでも図れている。*入居者に対して否定的な先入観を持たずに「今日という日」を大切に暮らせている。（音楽会やバレエの鑑賞にも出かけた）*スタッフが楽しく生活できなければ、入居者はもっとつまらない！スタッフが楽しく生活しているからこそ、入居者が居心地良く生活できていると思う。（スタッフの数が他の所より多く充実している。）*仕事という認識より一緒に生活しているという意識をもって、時間に追われず、ゆとりある日々を過ごして頂くことを願っている。*外部からの訪問者をいつでも温かく受け入れられる体制ができている。食事は産地直送の魚や国産の食材にこだわっている。自給自足の畑もあり、新鮮な野菜を摂取している。（食事の内容は充実していると思う）*スタッフは、命令や指示を出すのではなく、常に問いかける言葉を忘れずに、入居者の自己決定を待つケアを心がけている。*家庭的な雰囲気ですべてのスタッフが仲良しである。